

平成30年度 授業改善推進プラン	調布市立(上ノ原小) 学校
-------------------------	----------------------

【児童・生徒の学力向上を図るための調査結果の分析より】

【学力向上に関する学校経営方針】
 学級担任であるという意識から学年担任であるという意識への変革と連携運動する組織的な動きの一層の実現
 ○学習指導要領の趣意に対応した基礎的な知識及び技能の確実な習得。
 ○課題解決のために必要な思考力・判断力表現力の育成。
 ○教科担任制を一部実施し、児童の学習面・生活面両面から児童の様子を把握し、学年内の児童を学年の全ての担任で指導・見守る体制づくり
子どもの人数はいのちと心の数であるという意識を強くもち、高い人権感覚を発揮する教職員
 ○児童の人権感覚を磨く為の日頃からの人権に関わる授業の実施。
 ○周囲と関わり合いながらすすめる学習を多く取り入れ、学び合いを意識した授業の実践。

【平成30年度「児童・生徒の学力向上を図るための調査」に関する調査結果分析内容】
 ○国語、算数、理科の調査結果は「A教科の内容」「B読み解く力に関する内容」共に都の平均よりも概ね高い数値を示している。
 ○社会科と算数は特に、都の平均よりどの観点でも高い数値を示している。算数の「思考・判断・表現」は11ポイント以上、「知識・理解」については、10ポイント以上上回っており、日頃の学習の成果を発揮できている。しかし、「B読み解く力に関する内容」では都平均よりも高いものの、平均に近い数値を示していることから、様々な文章問題を児童に触れさせ、問題の意図を読み取る力を高めることが引き続き必要である。
 ○国語では、「関心・意欲・態度」が都の平均よりも若干下回っているものの、技能「書く」、「取り出す力」は共に、約12ポイント平均値よりも高い。また、社会科の読み解く力に関する内容の結果においても都平均を5ポイント以上高い数値であった。引き続き、児童の主体的な学びを促す授業改善を行っていく必要がある。
 ○理科は、「技能」「解決する力」は都平均より0.5～1ポイント程度下回っている。実験計画を立て、仮説を基に実験結果を考察・推論する授業展開を更に充実させていきたい。

【授業改善の方針・目標】

○学力調査の結果分析を踏まえ、各教科等の授業改善策の重点化を図る。
 ○多様な言語活動を工夫し、表現力や思考力を養う授業づくりを目指す。(国語科における話す・聞く力の学習の重点化、生活科・総合的な学習の時間における体験学習の実施、ねらいの明確化・適切な課題設定・ゴールの明示、主体的・対話的な授業への転換、考える活動の重視)
 ○個に応じた指導場面を取り入れたり、学習形態を工夫したりする。(学年内交換・合同授業の実施、算数少数指導の実施)

【授業改善のための具体的な取組】

【1年】
 ○音読指導を習慣化し、反復指導が可能な教材を活用した文字指導を行うなどして、基礎基本 の定着を図る【国】
 ○朝の会の日直のスピーチを習慣化し、反復指導を通して話す・聞く力を育む。【国】
 ○算数の場面をイメージさせるために具体的操作を取り入れ、数の感覚を養う。【算】
【2年】
 ○順序を整理して考え、話し合ったり書こうとしたりする態度を育て、内容や人数など目的をもった話し合い活動を取り入れる。【国】
 ○具体物を用いた活動などを通して、場面を考えて立式できるようにする。【算】
【3年】
 ○話のまとまりに気をつけてわかりやすい文章を書けるように指導する。【国】
 ○地域学習を通して、自分の生活との結びつきに気付かせるような活動を行う。【社】
 ○既習事項を活かして演算決定ができるようにする。【算】
 ○日常的に観察を行い、その変化や気付き、感想をワークシートに記録させる。【理】
【4年】
 ○身に付けた漢字を使って、文章を書く機会を授業で多く設ける。【国】
 ○図や表、資料活用能力を高める為に、授業内で教師の発問内容を改善する。【社】
 ○児童同士の教え合いが、授業内で展開できるようにする。【算】
 ○観察や実験のねらいを明確にし、見通しをもち問題解決ができるようにする。【理】
【5年】
 ○文章の構成(主語・述語・修飾語)の関係を考えて、適切な文章を書いたり話したりできるようにする。【国】
 ○資料集や地図、統計資料を活用し、事実やその根拠を考えて表現できるようにする。【社】
 ○問題解決型の授業を主として、アウトプットさせる時間を確保して学習の充実を図る。【算】
 ○観察や実験の目的を明確にし、見通しをもって観察や実験の方法を考えることができるようにする。【理】
【6年】
 ○文章の構成や表現の工夫を読み深め、自分の考えを話したり書いたりできるようにする。【国】
 ○資料及び資料提示の工夫を行い学習問題を設定し、課題を追究する問題解決的な学習を展開する。【社】
 ○図や絵・表や数直線を効果的に活用させ、問題解決学習型の学習を展開する。【算】

【音楽】
 ○児童の技能差、発達段階に応じた指導計画を工夫する(特に器楽演奏)。また、範唱、範奏を聴いて、楽曲の特徴や曲想等を児童同士で話し合っつつかみ、演奏に生かすよう工夫する活動を取り入れる。
【図画工作】
 ○安全に十分配慮しながら伸び伸びと表現し、基本的な技術と意欲を高められるような指導を行う。また、グループ活動や鑑賞活動を適切に設定し、共感する心や社会性、自尊感情などを養っていく。
【体育】
 ○児童の発達段階に応じて、様々な動きを繰り返し経験させる。運動の特性に合わせて、めあてやルールを工夫し、運動の楽しさを十分に味わえるようにする。
 ○安全に十分配慮しながら伸び伸びと表現し、基本的な技術と意欲を高められるような指導を行う。また、グループ活動や鑑賞活動を適切に設定し、共感する心や社会性、自尊感情などを養っていく。
【家庭科】
 ○グループ活動の形態を工夫したり実習場を増やしたりすることで、経験の共有化を図ったり協力したりできるようにするとともに適切な師範や資料提示により基本的な技能の定着を図る。
【生活科】
 ○身近な人々、社会及び自然との関わりを深めることを通して、自分のよさや可能性に気付き、意欲と自信をもって生活し、生活上必要な習慣や技能を身に付けさせ自立への基礎を養う。
【外国語】外国語による言語活動を通して、音声言語、文化の違いに気付き外国語で表現し、伝え合い、コミュニケーション能力の育成を図る。
【道徳】資料を通して自己を見つめ、道徳的諸価値への理解を深めたり、多様な考えにふれることで、自己の生き方について考えたりし、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度の育成を図る。

【取組の進行・管理, 評価方法, 時期】 分の考えを表現できるようにする。【理】

○都学力調査に基づき、授業改善推進プランの作成(8～9月)を行い、9月に公表する。
 ○総合評価・検証の結果を年度末(3月)に公表する。